

二次評価結果（子ども・保健福祉分科会）

資料6-1

1 開催概要

	日時	場所
第1回	6月19日（月） 午後1時30分～	特別会議室 （区役所6階）
第2回	7月10日（月） 午後1時30分～	特別会議室 （区役所6階）
第3回	7月28日（金） 午前9時00分～	特別会議室 （区役所6階）

2 評価委員

委員（敬称略） （◎は分科会長）	職名	備考（担当施策No）
◎ 出雲 明子	東海大学 政治経済学部 政治学科 准教授	下記担当施策全て
朝日 ちさと	首都大学東京 都市教養学部 都市政策コース 教授	同上
村上 祐介	東京大学大学院 教育学研究科 准教授	同上
清水 章	行政管理担当部長	同上
松本 博之	地域振興部長	22、25～27
門口 昌史	文化スポーツ担当部長	23、24
細越 正明	オリンピック・パラリンピック担当部長	20、21（第3回欠席）
保科 彰吾	環境まちづくり部長	14～19

3 担当施策

No	施策の目標
14	感染症や食中毒等を予防し、発生時には迅速な対応をする体制を整備します
15	一人ひとりの健康づくりを支援します
16	安心して医療が受けられるしくみづくりと、医療と介護の連携の推進に努めます
17	高齢者が安心して暮らせる地域づくりに向け、地域包括ケアシステムを構築・推進します
18	認知症高齢者を地域で見守り、支えるしくみを強化します
19	高齢者が、地域で生きがいを持ち、活動的に生活できるよう支援します
20	障害があっても暮らしやすい地域をめざします
21	障害者の就労を支援します
22	保護者の多様なライフスタイルに応じた子育てができる環境を整えます【※施策の目標34に再掲】
23	安心して子育てができ、子どもたちがすくすくと育つ地域づくりを進めます
24	福祉サービスの質の維持・向上に努めるとともに、生活困窮者に対する生活支援を強化します
25	他者を思いやり、人との関係をより良く築く力を共に育む教育を進めます
26	グローバル社会で活躍する資質・能力を育て、主体的・協働的・創造的に生きる力を身に付ける質の高い教育を進めます
27	児童・生徒が安全にのびのびと成長できる環境を整えます
34	保護者の多様なライフスタイルに応じた子育てができる環境を整えます【※施策の目標22の再掲】

二次評価					
施策の目標	14	感染症や食中毒等を予防し、発生時には迅速な対応をする体制を整備します	分科会	子ども・保健福祉	
評価結果					
B	合計 (75点)	主な取組み (25点)	指標 (25点)	今後の方針 (25点)	
	57	21	18	18	
主な意見					
主な取組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 主な取組みについては、「めざすべき10年後の姿」にむけ、適切に実施されている。ただし、「食の安全自主点検店」の公表制度など、経過が浅い取組みについては引き続き進捗を観察する必要がある。 ● 事前予防の観点から見ると東京2020オリンピック・パラリンピックを想定した取組みまでには至っておらず、進捗していないのではないかと。 				
指標	<ul style="list-style-type: none"> ● 食中毒を半減させていくという目標に対して順調に進捗していないのではないかと。 ● 食中毒に関する指標は数年間の平均値で実績を測るようにはどうか。 ● 予防接種の接種率は十分高いので、スケジュール管理のためのアプリサービスの導入等を図り、区民（特に学齢期の児童や成人）にどのくらいスケジュール管理が普及しているかを測る指標を設けるのはどうか。 ● パンデミック対策として訓練の実施について指標を追加してはどうか。 				
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 東京2020大会を想定した、平時とは異なる感染症や民泊の対応が遅れているように見えるため、方針を具体化させる必要があるのではないかと。 ● 普段の取組みとしては充実しているため、東京2020大会期間においても適切な対応に期待する。 ● パンデミック対策は、東京2020大会と関係なく検討は必要ではないかと。また、民泊については今後の動向次第では、監視や質の担保について検討が必要ではないかと。 				
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 東京2020大会では、来訪者の規模や属性が普段と大きく異なることから、10年後の姿とも統合的な対策を、より打ち出して示す必要があるのではないかと。 				
(参考)各委員評価					
委員	判定	合計 (15点)	主な取組み (5点)	指標 (5点)	今後の方針 (5点)
学識委員	C	8	4	2	2
学識委員	B	11	4	4	3
学識委員	B	12	4	4	4
内部委員	A	14	5	4	5
内部委員	B	12	4	4	4

二次評価					
施策の目標	15	一人ひとりの健康づくりを支援します	分科会	子ども・保健福祉	
評価結果					
C	合計 (75点)	主な取組み (25点)	指標 (25点)	今後の方針 (25点)	
	41	16	12	13	
主な意見					
主な取組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 啓発、体制の整備、データに基づく重点的なアプローチは適切である。メニューが充実しており、区としてできる取組みは行っている印象である。 ● サービス提供まではできているが、受診等を促進するための取組みに課題があるように感じる。未受診者がなぜ受診しないのかの分析も重要ではないか。 ● 受診率の向上等の取組みはすでに進捗しており、ほどほどで良い印象がある。行政としての責任やサービス提供は果たされているのではないか。 				
指標	<ul style="list-style-type: none"> ● 「65歳健康寿命」や「メタボリックシンドロームに該当する人の割合」に関して、健診の受診率が今以上に高まるようにしない限り、順調に目標値に進捗することは難しいのではないか。 ● 現在の取組みと指標との関係が遠い印象を受けた。現在の取組みだけで直ちに指標が改善するかは疑問が残る。区としての成果が直接見えるよう区民の意識がわかる指標のほか、アウトプット指標を追加してはどうか。 ● 進捗を測るためには、最終アウトカムを示す指標のほか、アウトプットや中間アウトカムを示す指標が必要な施策ではないか。 				
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 健診の充実などよりも今後はメンタルヘルスをさらに強化する必要があるのではないか。 ● 現在の取組みを継続するほか、区の特徴を把握したうえで区民の意識や行動に働きかけるような、新しい分野や効果の部分に力点を置いた取組みがあっても良いのではないか。 				
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● スポーツに関する施策をはじめ、関連のある施策の目標同士で共通指標を入れるなど施策を連携させていくという考え方もあるのではないか。 				
(参考)各委員評価					
委員	判定	合計 (15点)	主な取組み (5点)	指標 (5点)	今後の方針 (5点)
学識委員	C	9	4	2	3
学識委員	C	9	3	3	3
学識委員	B	10	4	3	3
内部委員	C	6	2	2	2
内部委員	C	7	3	2	2

二次評価				
施策の目標	16	安心して医療が受けられるしくみづくりと、医療と介護の連携の推進に努めます	分科会	子ども・保健福祉
評価結果				
B	合計 (75点)	主な取組み (25点)	指標 (25点)	今後の方針 (25点)
	53	21	15	17
主な意見				
主な取組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者総合サポートセンターが開設後、直ちに運用上も効果を発揮するのが難しいことを考えれば、計画策定2か年時点の進捗状況としては評価できる。 ● 施策の目標達成に向けた進捗として、医療と介護の連携が深まっていないのではないか。 ● 区民、医療供給者双方へ情報発信・働きかけができており、取組みとしては評価できる。 			
指標	<ul style="list-style-type: none"> ● 設定している指標全てにおいて明確に改善している指標がない。ただし、短期的に大きな成果が出る内容ではないため、指標と成果がミスマッチしている可能性があるのではないか。 ● 数量的な指標だけでなく、介護人材の育成など、質に関する視点も取り入れ、事業を振り返るような指標も追加してはどうか。 ● 「自宅で亡くなった人の割合」に関して、訪問診療などを受けた人のみに限定する等、孤独死等の要因を含まない数値結果を指標として追加してはどうか。 			
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護人材をどうやって育成するのかや在宅という点にフォーカスした取組みの具体化、方向性の明確化が求められているのではないか。 ● 医療と介護の連携支援の取組みにおいて、今あるサービスを情報発信するだけでなく、利用者である区民自らの選択を支援する視点が必要ではないか。 ● 医療と介護の連携によって何をめざすのかを再検討する必要があるのではないか。 			
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 区民のニーズがどこにあるのか、どの程度を要望しているのかを調査してみてはどうか。それにより区民の選択を支援するという視点も強化されるのではないか。 ● 「めざすべき10年後の姿」の実現に向けて、高齢者総合サポートセンターをどう利活用していくのか、計画の中で示す必要があるのではないか。 			

(参考)各委員評価

委員	判定	合計 (15点)	主な取組み (5点)	指標 (5点)	今後の方針 (5点)
学識委員	B	11	5	3	3
学識委員	B	10	4	3	3
学識委員	B	12	4	4	4
内部委員	A	13	5	3	5
内部委員	C	7	3	2	2

二次評価				
施策の目標	17	高齢者が安心して暮らせる地域づくりに向け、地域包括ケアシステムを構築・推進します	分科会	子ども・保健福祉
評価結果				
B	合計 (75点)	主な取組み (25点)	指標 (25点)	今後の方針 (25点)
	51	20	15	16
主な意見				
主な取組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 区の人口規模で考えれば、取組みは充実していると評価できる。 ● 支援が多岐にわたり、取組みが充実しており、また、介護予防重視の取組みや方針も評価できる。ただし、医療分野における課題は残っているのではないか。 			
指標	<ul style="list-style-type: none"> ● 3つの指標のうち、2つについては現状値が悪化しているため、進捗しているとはいえない。ただし、要因や背景を踏まえれば、直ちにあるべき姿に対して深刻な値を示しているというわけではない。 ● 10年後を見据えれば、ニーズ拡大が見込まれる分野である。そのため、「地域介護予防活動支援事業の参加者数」については目標値が低い一方、「要介護1以上の高齢者のうち安心見守り台帳に登録している人の割合」は登録対象者数が今後増えることを踏まえると、割合をキープすることが難しく、設定の高い目標値であるといえる。状況に応じて目標値の再検討が必要ではないか。 ● アウトプット指標だけでは達成度を測ることが難しい施策の目標であり、アウトカム指標の追加が必要ではないか。 			
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護予防、医療と介護の連携については今後、さらなる取組みが必要ではないか。 ● 高齢者総合サポートセンターが今後どれだけ機能するかが課題ではないか。 ● 介護施設の受け入れを増加するという取組みは短期的なニーズを満たすためには望ましいが、介護と医療の連携におけるニーズは別であるため、居宅サービスの受け入れ側のニーズ把握や態勢の検討は引き続き必要ではないか。 ● 介護を必要とする人に対する地域包括ケアシステムを構築するとともに、介護をほぼ必要としないまま生涯を終える人のための取組みについても引き続き実施・検討する必要があるのではないか。 ● 量的な拡大が見込まれる中でも提供できる居宅サービスを維持しつつ、居宅サービス以外も含め、どのようなサービス体制で今後のニーズに対応していくのか、介護サービス全体を整理する必要があるのではないか。 			

(参考)各委員評価

委員	判定	合計 (15点)	主な取組み (5点)	指標 (5点)	今後の方針 (5点)
学識委員	B	10	4	3	3
学識委員	B	10	4	3	3
学識委員	B	12	4	4	4
内部委員	B	11	5	3	3
内部委員	C	8	3	2	3

二次評価					
施策の目標	18	認知症高齢者を地域で見守り、支えるしくみを強化します	分科会	子ども・保健福祉	
評価結果					
B	合計 (75点)	主な取組み (25点)	指標 (25点)	今後の方針 (25点)	
	58	20	20	18	
主な意見					
主な取組み	<ul style="list-style-type: none"> ● ハイリスク高齢者への家庭訪問は取組みとして評価できる。認知症サポーター事業に関しては受講後の活動につながっているかが課題だが、区として有益な情報提供はできているのではないかと。 ● 認知症予防カフェなど、交流の目的も兼ねた、きめ細かい取組みは評価できる。 				
指標	<ul style="list-style-type: none"> ● 指標は進捗しているものの、アウトプット指標の設定に滞まっているため、今後、成果指標の設定が求められるのではないかと。 ● 「認知症サポーター延べ養成者数」は実績値が高く、進捗が認められるため、評価できる。一方、受講者が昼間区民中心となっており、スピルオーバー効果はあるかもしれないが、それが区内での活躍に還元されているか疑問が残る。昼間区民を区内の活動に結び付ける、または区民向けの取組みの強化が必要ではないかと。 ● 「認知症グループホームの定員数」については、場所や事業者の関係があるため、区内での確実な達成は難しい指標なのではないかと。区民にとってトータルで受入れがあれば良いと考えれば、設置に際しては区民が求める施設は区外への設置など、多面的な調査・検討が必要ではないかと。 				
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ● ニーズの増加に対応しつつ、「見守り」の視点から考えれば、区民や昼間区民がどのような活動を展開してほしいのか今後、具体的に検討する必要があるのではないかと。 ● 区民にとって認知症は関心が高いが、知識だけでは安心感は得られないのではないかと。今後は安心感を与える取組みとして介護・支援者と一般区民が関わりを増やす機会の提供等が有効ではないかと。 ● 家族・介護者の将来的な負担軽減についての取組みの強化が必要ではないかと。 ● 認知症予防の研究、取組みを区として独自に行うことはできないかと。 				
(参考)各委員評価					
委員	判定	合計 (15点)	主な取組み (5点)	指標 (5点)	今後の方針 (5点)
学識委員	B	10	4	3	3
学識委員	B	12	4	4	4
学識委員	B	11	4	4	3
内部委員	A	13	4	5	4
内部委員	B	12	4	4	4

二次評価					
施策の目標	19 高齢者が、地域で生きがいを持ち、活動的に生活できるよう支援します	分科会	子ども・保健福祉		
評価結果					
B	合計 (75点)	主な取組み (25点)	指標 (25点)	今後の方針 (25点)	
	49	19	15	15	
主な意見					
主な取組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 取組みは一定の進捗を示しているが、コミュニティや教育等他の施策との連携が不足しているため、他の施策との連携を進めるべきではないか。 ● 高齢者総合サポートセンターで研修などを実施している取組みは評価できる。また、地域で生きがいを持っていきいきと生活できるような仕組みをつくるという点では効果的な取組みが実施されていると評価できる。 				
指標	<ul style="list-style-type: none"> ● 現行の指標ではそれぞれの関係性が薄いので、2つの指標の関連が分かるような設定が良いのかもしれない。相乗効果を知ることのできる指標が必要ではないか。 ● 最終アウトカムの視点でいえば、施策の目標と指標との関係が分かりづらい。「ボランティア活動に参加している前期高齢者の割合」については老老介護等によってボランティアに参加しないことをどう評価するか、課題のある内容になっている。指標の再検討が必要ではないか。 ● 施策の目標の成果との関連が不明確な指標設定になっている。アウトプット指標とするのであれば、高齢者総合サポートセンターの利活用の度合いやイベントへの参加指数を加えるなど、指標の再検討が必要ではないか。 				
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 案内するボランティアの種類は福祉分野にとどまらず、国際協力の分野など多角化しても良いのではないか。ボランティア全般に関する情報発信も求められるのではないか。 ● 全国的にシルバー人材センターそのものを再検討する時期に来ている。その改善策が区としても必要ではないか。 ● 今後は後期高齢者の視点に立った取組みの追加が必要ではないか。 ● 高齢者の貧困や社会的孤立を防ぐという視点や取組みが必要ではないか。 ● 「めざすべき10年後の姿」に掲げられている地域で「支える側」としての役割を担ってもらうための取組みがさらに必要ではないか。 				
(参考)各委員評価					
委員	判定	合計 (15点)	主な取組み (5点)	指標 (5点)	今後の方針 (5点)
学識委員	C	8	3	3	2
学識委員	B	10	4	3	3
学識委員	B	11	4	3	4
内部委員	B	10	4	3	3
内部委員	B	10	4	3	3

二次評価					
施策の目標	20	障害があっても暮らしやすい地域をめざします	分科会	子ども・保健福祉	
評価結果					
B	合計 (60点)	主な取組み (20点)	指標 (20点)	今後の方針 (20点)	
	42	16	13	13	
主な意見					
主な取組み	<ul style="list-style-type: none"> ● えみふるの事業拡大や地域移行支援、計画相談支援など、ニーズの高まりに応じた取組み・サービスが展開できているところは評価できる。 ● 当事者に対する支援の取組みは充実しているが、周囲への理解や社会参加に対しての取組みが不十分ではないか。 ● バリアフリーや障害者の高齢化に関する取組みについての言及が少ないのではないか。 				
指標	<ul style="list-style-type: none"> ● 各施設の利用者は着実に増加し、目標は達成しているものの、当初の目標設定が不十分だったのではないか。利用者見込みはサービス量にも直結するため、今後、指標の再検討が必要ではないか。 ● 現行の指標だけでは「めざすべき10年後の姿」の達成度を測ることが難しい。 ● 設定している指標の趣旨に基づく進捗は確認できるが、現状の指標以外に周囲や地域の受入態勢に関する指標が必要ではないか。 ● サービスに対する障害者やその家族の満足度を測る指標が必要ではないか。 				
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ● ニーズの更なる高まりに今後、どのように対応していくのか、どこまで対応することが可能なのか、検討が必要ではないか。 ● 障害者施策に加えて本人のみならず、住宅、コミュニティ、産業等、他の施策とも連携して地域の理解を築いていく取組みが必要ではないか。 ● 区民アンケートによる満足度調査で「わからない」が多い。一般区民の障害者への理解度を高める取組みが必要ではないか。 ● 今後は、障害者の高齢化に対応した支援の取組みが求められているのではないか。 ● 発達障害の早期発見・療育は教育の質との関連においても重要であるため、子ども発達センターの機能強化が必要ではないか。 				
(参考)各委員評価					
委員	判定	合計 (15点)	主な取組み (5点)	指標 (5点)	今後の方針 (5点)
学識委員	C	9	4	2	3
学識委員	B	12	4	5	3
学識委員	B	12	4	4	4
内部委員	C	9	4	2	3

二次評価				
施策の目標	21 障害者の就労を支援します	分科会	子ども・保健福祉	
評価結果				
B	合計 (60点)	主な取組み (20点)	指標 (20点)	今後の方針 (20点)
	44	15	16	13
主な意見				
主な取組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 福祉サービスの利用者と比較すると、就労支援の取組みは伸び悩んでいるのではないか。施策は進捗しているが、課題も引き続き継続している印象である。 ● 実態として就労支援と生活介護を併行して受けることが不可欠であり、就労支援としては一般的な取組みが実施されているのではないか。 ● 特別支援学校との連携は、概ね適切な取組みと評価できる。 ● 区民アンケートの満足度は高く、取組みは評価できる。 			
指標	<ul style="list-style-type: none"> ● 「障害者就労支援センターを利用し就労している人の数」については、難しい課題・取組みであることを踏まえれば、順調に進捗しているといえるのではないか。 ● 両指標とも実態としては順調といえるが、「障害者就労支援センターのサービスに満足している登録者の割合」の目標値が高く設定されていること等もあり、目標値に対する進捗は芳しくない。目標値の再検討が必要ではないか。 			
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 今後は就労支援センターに対する企業の評価を高めていくことが必要ではないか。 ● 就労先の環境整備が進んでいる一方で、就労実績が伸びていない印象である。雇用促進援助事業の対象企業側への働きかけに対する視点が不十分ではないか。 ● 個別の就労支援に対応するための専門性の強化等の課題認識は適切であると評価できる。 ● 精神障害者への対応について、より具体的な方針や取組みが求められるのではないか。 ● 児童・家庭支援センターと連携し、幼少期から就労期まで一貫してサポートできる態勢の整備が求められるのではないか。 			
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 国の法整備の状況や社会的な状況に左右される施策の目標であるため、区としてできることを着実に実施していくことが重要ではないか。 ● 現在、施策の目標の中に位置づけられていない障害者手帳を持つに至らない発達障害者への就労支援も、今後必要になると推測されるのではないか。 			

(参考)各委員評価

委員	判定	合計 (15点)	主な取組み (5点)	指標 (5点)	今後の方針 (5点)
学識委員	B	10	3	4	3
学識委員	B	11	4	4	3
学識委員	B	10	4	3	3
内部委員	A	13	4	5	4

二次評価				
施策の目標	22 保護者の多様なライフスタイルに応じた子育てができる環境を整えます【※施策の目標34に再掲】	分科会	子ども・保健福祉	
評価結果				
B	合計 (75点)	主な取組み (25点)	指標 (25点)	今後の方針 (25点)
	60	23	20	17
主 な 意 見				
主な取組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 平成22年以降定員が急激に増えていることから、保育園の数や園の定員を増やす取組みの成果は評価できる。 ● 区立と私立の質について、インフラの問題は一部あるが、保育士の技量・技術面の差を指導等により、その解消を図っていることは評価できる。 ● 代替園庭としている公園は、保育環境の整備という点で、喫煙対策を、より積極的に関連部に働きかけるなど、より一層力を入れていく必要があるのではないか。 			
指標	<ul style="list-style-type: none"> ● 待機児童ゼロの継続以外に、私立園の指導の件数や内容等、質という観点での指標などの追加も必要ではないか。 ● 「現在利用している保育・教育サービスに満足している保護者の割合」について、区の現状の取組みは量の供給が主軸となっているが、個々の希望園のマッチングや質に関する期待という観点からすると値はそれほど高くないのではないか。「やや不満」「不満」と回答した人の理由を調べることが満足度を高めることに直結するのではないか。 ● 区として認可園を増やすという方針を持っているのであれば、認可園入園率や、認可外、認証保育所について質を向上させるための「質の確保」に関連する指標などがあっても良いのではないか。 ● 毎年、進捗度を測るのであれば、5年に1回しか調査しない「保育・教育サービスに満足している保護者の割合」のような指標は、今後の計画改定のときに改めた方が良いのではないか。 			
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 学童クラブについては、目的の明確化、放課後子ども教室との役割分担や費用負担の違いが課題としてあるのではないか。 ● 区として確保すべき水準が非常に充実し過ぎていると感じる一方で、それにより期待値が高まり過ぎてしまう面もあるため、区として確保すべき水準を検討すべきではないか。 ● 保育の供給量を増やすために、民間事業者に対して、園庭の融通など施設に関する支援を行うとともに、事業者の工夫を促すなど、インセンティブの観点が必要ではないか。 ● 施策の全体像の中に、認証と認可外の保育の質を確保していくための監査や評価の視点があっても良いのではないか。 ● 高所得者層の区分を新たに設けるなど、保育料を見直し、その増収分について学童クラブや認可、認可外、認証保育所の質の確保に充てることを検討しても良いのではないか。 ● 小学生以上の子どもがいる家庭の定住促進の観点から、学童クラブの充実や住環境の整備や経済的負担の軽減等を検討しても良いのではないか。 ● 保育園、学童クラブの待機児童ゼロは、短期的な対応に追われ続けている印象があるため、人口推計に基づいて中長期的な方針を持つ必要があるのではないか。 			

(参考)各委員評価

委員	判定	合計 (15点)	主な取組み (5点)	指標 (5点)	今後の方針 (5点)
学識委員	B	12	5	4	3
学識委員	B	12	4	4	4
学識委員	A	13	5	4	4
内部委員	B	12	5	4	3
内部委員	B	11	4	4	3

二次評価				
施策の目標	23	安心して子育てができ、子どもたちがすくすくと育つ地域づくりを進めます	分科会	子ども・保健福祉
評価結果				
B	合計 (75点)	主な取組み (25点)	指標 (25点)	今後の方針 (25点)
	58	22	19	17
主な意見				
主な取組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育て施策に関して、高校生の次世代育成手当、医療費助成等、他の自治体と比較し、先進的な取組みを行っている」と評価できる。 ● 総合相談について、コーディネーターの配置などが充実してきている一方で、役割や相談の内容も重要である。今後は、相談内容を踏まえた、施策の目標に沿った取組みが必要ではないか。 ● 母子保健サービスは、対象者が少ない区の特性もあり、妊娠出産から育児までの切れ目のないしっかりした支援ができている」と評価できる。 			
指標	<ul style="list-style-type: none"> ● 「相談後に解決・改善した割合」の現状値（74%）と目標値（85%）との差が10%以上あり、目標達成が非常に難しい指標の設定と思われるため、達成するには今後、相談員の質や各部署との連携体制をより一層強化する必要があるのではないか。 ● 「子育てが楽しいと思う保護者の割合」はさまざまな外部要因が働きすぎる指標であることや、困窮している人にとっては、かけ離れた指標であるため、施策を改善していくという観点からは、あまり有効ではなく、参考にならない。 ● 「進捗管理」と「施策改善」の2つの別の目的を同じ指標で行うのは無理があるため、指標の再検討が必要ではないか。 ● 乳幼児の全戸訪問の実施率・受診率について、初期値からすでに割合が高すぎるため、指標の再検討が必要ではないか。 ● 「区の子育て支援が充実しているか」など、区の施策に対する認識を測る指標も必要ではないか。 			
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 区の人口と同規模の自治体が児童相談所を開設するのは全国で例がないため、今後開設に向け、職員の専門性の向上や職員数の確保、運営に向けた執務体制の整備等については、「めざすべき10年後の姿」に直接関わってくる取組みとして、周到的な検討をする必要がある。 ● 先進的に取り組んでいる高校生の子どもに対する支援でも、さらに経済的に困窮した家庭に対してはもう少し踏み込んで、区独自で就学援助をすることを検討しても良いのではないか。 ● 保護者の安心感や満足度を向上させるため、施策や事務事業レベルではなく、個々の取組みについてニーズを確認することも必要ではないか。 ● 区民アンケートの重要度が他の施策に比べ高いのに対し、満足度が低いのは、区が行う地域の取組みなどに関わっていない区民への周知が不足している可能性があるため、今後も地域への取組みを重要視するのであれば、しっかりとした体制づくりなどが必要ではないか。 ● 区民アンケートの中で、満足度に地域差がみられるため、その地域的な満足、不満足の原因分析も必要ではないか。 			

(参考)各委員評価

委員	判定	合計 (15点)	主な取組み (5点)	指標 (5点)	今後の方針 (5点)
学識委員	B	10	4	3	3
学識委員	B	11	4	4	3
学識委員	A	13	5	4	4
内部委員	A	13	5	4	4
内部委員	B	11	4	4	3

二次評価				
施策の目標	24	福祉サービスの質の維持・向上に努めるとともに、生活困窮者に対する生活支援を強化します	分科会	子ども・保健福祉
評価結果				
B	合計 (75点)	主な取組み (25点)	指標 (25点)	今後の方針 (25点)
	57	20	19	18
主な意見				
主な取組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 施策の実現に向けた取組みとして、事業のメニューは充実しているが実績が少なく、対象者への支援に結び付いていないのではないかと。また、プラン作成後の実行状況がわかりにくいと、評価が難しい。 ● 生活困窮者自立支援法に基づく取組みとして、相談・支援体制の構築や自立に向けたプラン作成などが可能となり、着実に成果が表れていると評価できる。 			
指標	<ul style="list-style-type: none"> ● 「生活保護の被保護者数」については、人口の社会増減等の要因を加味できないのであれば、被保護者数そのものではなく、自立支援対象者のうち実際に就労できた人の割合や相談件数などを指標として追加してはどうか。 ● 生活保護受給者のうち、路上生活者とそうでない人とを分けたうえで指標を設定すると、より細かい分析ができ、適切といえるのではないかと。 ● 「住居確保のための給付金受給者の就職率」について、実績値が低く、指標として適当でないため、指標の再検討が必要ではないかと。 			
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 対象者の状況に合わせた支援方法のメニューが揃っているため、今後きめ細かい支援の実施が期待される。ただし、支援の成果を示す自立支援の貢献度についてのモニタリングが必要ではないかと。 ● 支援が必要だが、申請方法が分からない人など、潜在的に支援が必要な人を掘り起こす方法や、把握した後にアプローチする取組みが必要ではないかと。 			
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 「福祉サービスの質の維持・向上」と「生活困窮者への生活支援」という2つの内容が含まれる構成の施策目標となっているが、「福祉サービスの質の維持・向上」は、他の施策でも関連しているものなので、この施策として、どこにフォーカスするかを決めた方がよいのではないかと。 ● 取組みが生活困窮者支援に偏っているように見える。「福祉サービスの質の維持・向上」の観点から、サービス利用者の尊厳や主体性を重視する施策を「主な取組み」として加えてもよいのではないかと。 			

(参考)各委員評価

委員	判定	合計 (15点)	主な取組み (5点)	指標 (5点)	今後の方針 (5点)
学識委員	C	8	3	3	2
学識委員	B	12	4	4	4
学識委員	B	12	4	4	4
内部委員	A	13	5	4	4
内部委員	B	12	4	4	4

二次評価				
施策の目標	25 他者を思いやり、人との関係をより良く築く力を共に育む教育を進めま す	分科会	子ども・保健福祉	
評価結果				
B	合計 (75点)	主な取組み (25点)	指標 (25点)	今後の方針 (25点)
	55	20	16	19
主 な 意 見				
主な取組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもや教職員に対する窓口、支援内容、体制の整備を中心とした取組みが適切に実施されていると評価できる。 ● 特別支援教育に関わる支援員、指導員の質を確保・向上するための取組みが不足しているのではないか。 			
指標	<ul style="list-style-type: none"> ● 保護者満足度の3つの指標のうち、2つの指標の数値が若干下がっている。「校内通級指導に対する保護者満足度」の数値低下の要因については、体制を整えてすぐの過渡期であるため、との説明であったが、保護者にとって何らかの懸念があるなら経過観察する必要があるのではないか。 ● 「学習・生活支援員配置に対する保護者満足度」が若干下がっている理由は特別支援教育に関わる人材の質に関連があるかもしれない。満足度を向上させるためにも、人材確保の取組みの強化を検討する必要があるのではないか。 ● 「『いじめは、どんな理由があってもいけない』と回答する子どもの割合」は、平成36年度の目標値を100%に変更しても良いのではないか。 ● 「めざすべき10年後の姿」のうちの1つである「多様な人と関わる経験や自然体験、社会全体等から学んだ事を活かし、思いやりの心や規範意識のある人材が育っている」状況を測る適切な指標を設定すべきではないか。 			
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 特別支援教育に関わる指導員、支援員の相互の情報交換の仕組みやネットワークの強化が必要ではないか。 ● 平成28年度に通級指導を全公立学校で開始する等、制度を拡充している移行期であるため、人材の確保が困難などの分析に基づく、今後の方針の設定は適切であると評価できる。 ● 特別な支援を必要とする子どもをどうサポートするかという視点はとても厚いが、健常の児童・生徒が、障害や特別支援への理解をどう深めるかという視点が不足しているようなので強化しても良いのではないか。 ● 保護者は、発達障害等も含めた、広い意味での障害児への対応が不十分と思っているのではないか。対象者が増えてきている中で、区の障害児対策をどこまでやるのか、いま一度考える必要があるのではないか。 			

(参考)各委員評価

委員	判定	合計 (15点)	主な取組み (5点)	指標 (5点)	今後の方針 (5点)
学識委員	B	12	4	4	4
学識委員	B	11	4	3	4
学識委員	B	11	4	3	4
内部委員	A	13	5	4	4
内部委員	C	8	3	2	3

二次評価				
施策の目標	26	グローバル社会で活躍する資質・能力を育て、主体的・協働的・創造的に生きる力を身に付ける質の高い教育を進めます	分科会	子ども・保健福祉
評価結果				
A	合計 (75点)	主な取組み (25点)	指標 (25点)	今後の方針 (25点)
	64	25	19	20
主な意見				
主な取組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 学力だけでなく、体力や国際理解、伝統文化について区の特性を活かした取組みが幅広く展開されており、質も非常に高いところは評価できる。 ● これまで小中学校及び男女ともに国平均を下回っていた体力調査の結果が、平成28年度に全て国平均を上回ったことは、取組みの成果として評価できる。 			
指標	<ul style="list-style-type: none"> ● 「中学3年までに英検3級に合格した生徒の割合」については、現状と目標に大きく差がみられ、平成36年度までに目標を達成できるのか懸念がある。順調に進捗しているとはいえないのではないか。 ● 「千代田区達成度調査で定めた各教科の目標値を超えた子どもの割合」達成率は、私立校へ進学する子どもの割合などの環境要因に毎年大きく影響を受ける指標であり、進捗を評価するのは難しいのではないか。 ● 「健康・食育・体力向上プランの保護者満足度」については、家庭での意識や取組みが外部要因としてあるため、保護者との関わりが指標として評価対象となることは理解できる。一方、「幼児・児童国際教育の保護者満足度」については、今回数値が低下しているが、保護者のニーズを過剰に拾ってしまい、成果を表せておらず、要因や指標の検討が必要ではないか。 ● 英語に関しては「英語が好きな生徒の割合」や「外国に関心を持った生徒の割合」のようなアウトカム指標を追加しても良いのではないか。また、体力に関してはどのような取組みを行ったかといった、アウトプット指標を追加しても良いのではないか。 ● 保護者の満足度だけでなく、実際に現場にいる子ども、生徒の満足度、評価を指標として設定しても良いのではないか。 			
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 英語力等を活用する場を提供するような取組みを増やす検討をされても良いのではないか。 ● 個々の取組みレベルは高いので、高校、中等教育学校との連携のような校種間連携や地域との連携等、区の強みを活かす取組みがあっても良いのではないか。 ● 公立として必要な取組みは既に実施されており、今後は今のレベル以上に魅力的な公立学校をめざすために、より高い目標を持って良いのではないか。 			

(参考)各委員評価

委員	判定	合計 (15点)	主な取組み (5点)	指標 (5点)	今後の方針 (5点)
学識委員	B	12	5	3	4
学識委員	A	13	5	4	4
学識委員	A	13	5	4	4
内部委員	A	13	5	4	4
内部委員	A	13	5	4	4

二次評価

施策の目標	27 児童・生徒が安全にのびのびと成長できる環境を整えます	分科会	子ども・保健福祉
-------	-------------------------------	-----	----------

評価結果

B	合計 (75点)	主な取組み (25点)	指標 (25点)	今後の方針 (25点)
	54	21	17	16

主な意見

主な取組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 施策の目標の「安全にのびのび」というところが、時代的にジレンマに陥っており、取組みの評価が難しいのではないかと。 ● 安全の確保の観点からはシルバー人材センターを活用した見守りやプレーリーダーの配置など地域や団体との連携が進んでいると評価できる。 ● 教育施設の整備に関しては、場所的な制約がある中で、地域コミュニティや安全等の観点も取り入れながら、学校機能の複合化や安全対策が図られており、順調に進捗しているのではないかと。 ● 「のびのびと成長できる環境」の整備という観点では、子ども同士のコミュニティの大事さに配慮した取組みがあっても良いのではないかと。 ● 都市部の自治体であることと、地域事情から考えると、施策の目標の達成には不十分な面はあるかもしれないが、耐震対策や学校施設の整備、遊び場確保等、適切に実施されていると評価できる。
指標	<ul style="list-style-type: none"> ● 他の施策と共通の指標しかないため、遊び場の確保、子どもの110番等に関連した、独自の指標が必要ではないかと。 ● 「『安全・安心なまち』と思う人の割合」は、他の分野の施策の展開も含めて向上する内容であると思われるため、当該施策の取組みだけで達成・評価するのは難しいのではないかと。指標の再検討や別の指標の追加が必要ではないかと。 ● 現在の指標は社会経済の変化、防犯、まちづくり施策等にも影響されるので、地域との連携や、「子どもの安全教育をどれくらいやっているか」など、現行の取組みを継続させるといった指標の追加が必要ではないかと。
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 将来的には大人のサポートがなくても、子どもたちが自由に外遊びできる環境を実現するための具体的な方針を出すべきではないかと。 ● 「のびのびと成長」という視点を考慮すると、地域、事業者とより連携していくことが必要ではないかと。 ● 地域との連携の重視とか、見守りや遊び場の充実化という方針は適切である。一方で、「のびのびと成長できる環境」の整備という観点では地域住民とか地域の周りの人による自立的な環境構築や、学校施設の活用との連携といった内容があっても良いのではないかと。 ● 自由に遊ぶことも大事な一方で、指導者がリードして、スポーツ体験等様々な体験ができる機会を提供する取組みがあっても良いのではないかと。 ● 全体として、子どもの安全教育という視点が必要ではないかと。 ● ちよだみらいプロジェクトの想定人口よりも実績が多くなっていることを考慮すると、10年後に学校が足りなくなることも見据えて、いつでも学校を整備できるよう中長期的な方針を立てる必要があるのではないかと。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 区の取組みがどこまでできているのかを他の自治体との比較で区民に周知し、理解してもらうことで施策の満足度の結果は向上するのではないかと。

(参考)各委員評価

委員	判定	合計 (15点)	主な取組み (5点)	指標 (5点)	今後の方針 (5点)
学識委員	B	10	4	3	3
学識委員	B	10	4	3	3
学識委員	A	13	5	4	4
内部委員	B	10	4	3	3
内部委員	B	11	4	4	3